暖帯性広葉樹材の流通（Ⅱ）

－都城原木市売市場における銘木市の取引状況－

林業試験場九州支場　安永　朝海
森田　栄一

1. はじめに

前第1報においては，宮崎県都城地区製材業協同組合の一般市の資料を用いて，製材用原木を中心とする暖帯性広葉樹流通の特徴について報告した。本報では前報の一般市に引き続いて開設された銘木市の資料を用いて前報とほぼ同じ内容の整理を行い，一般市との比較を試みた。なおこの市場は，カシ，シイ類等暖帯性広葉樹用材を主体とした，南九州における代表的な原木市売市場の一つである。

2. 取扱数量等の概要

前回の一般市と今回の銘木市で落札された原木の取扱量等の概要を表－1に示す。表の順序に従って両者を比較すると，次の点が指摘される。

①取扱数量は，件数，本数，材積，価額ともに，銘木市が多い。特に価額において著しい（約4.4倍）。

②取扱数量のうち広葉樹が占める割合は，両市とも，本数を除き，いずれも針葉樹を上回っている。

③平均価格は，銘木市において著しく高く，特に銘木市の針葉樹で顕著である。

④取引上の樹種区分は，単一樹種の場合が多いが，たとえば「マツ類」，「シイ類」，「広葉樹込み」といったように，複数の樹種を含む区分の場合もある。後者を含め，以下では単に樹種と呼ぶことにするが，これらの取引上の樹種数は，針葉樹，広葉樹とも，銘木市において多い。要するに，銘木市の取引樹種は多様である。

以上を概括すると，銘木市は一般市以上に，高価格材を中心にした多品目・小量取引に特色を持つ市場であるといえよう。以下，銘木市の広葉樹を中心に，項目を追って具体的に検討する。

3. 樹種別取扱量

銘木市における広葉樹の樹種数は43の多数にのぼるが，これらの樹種は，取引量の大小によって次の3グループに大別することができる。

表－1　市の種類別取扱数量，価格等の概要

市の種類		銘木市	一般市
開設年月日		58.10.12	58.9.24
市の番号		第375回	第374回
取扱総数	件数，件	1,992	832
	本数，本	13,934	9,725
	材積，m³	2,456	1,081
	価額，円	133,601	30,387
取扱総数に占める広葉樹の割合	件数，%	57	57
	本数，%	33	26
	材積，%	56	57
	価額，%	53	60
平均価格	針葉樹，円／m³	57,663	25,845
	広葉樹，円／m³	51,777	29,841
樹種又は樹種群数	針葉樹	12	9
	広葉樹	43	33
主要樹種の材積割合	針葉樹，%	83	96
	広葉樹，%	45	62

注．ここでの主要樹種とは次の樹種又は樹種群を言う。針葉樹 ― スギ，ヒノキ，マツ類，針葉樹込み。広葉樹 ― カシ類（イチイガシ，シラカシ，アカガシ，カシ類込み），シイ類（コジイ，スダジイ，シイ類込み），広葉樹込み（主として，カシ類，シイ類）。

第1樹種グループ（主要樹種）― 表－1注記の通りのカシ類，シイ類から成る暖帯性広葉樹の代表樹種グループ。

第2樹種グループ（準主要樹種）― 一般市・銘木市を通じて取扱量が比較的多い樹種グループ。ここでは材積構成比3％以上の樹種，すなわちミズメ，クスノキ，タブ，サクラ，ケヤキ，イスノキの6樹種。

第3樹種グループ（稀少樹種）― 一般市・銘木市を通じて材積構成比が3％未満の小量取引樹種。

表－2は，以上の区分にしたがって，グループごとの取扱量を整理したものであるが，一般市と比較した場合，銘木市の特徴として次の点が挙げられる。

①材積構成比で見た場合，第1・第2・第3グループの順位は一般市と変らないが，第1グループの比重は銘木市ではかなり低下し，かわって第2・第3グル

Tomomi YASUNAGA and Eiichi MORITA (Kyushu Br., For. and Forest Prod. Res. Inst., Kumamoto 860)
The distribution and circulation of hardwoods in japanese warm temperate regions (Ⅱ)
Trading aspects of precious woods in Miyakonojo log market

表－2 市の種類別・樹種グループ別取扱量等

区分	樹種グループ	樹種数	構成比 % 樹種数	件数	本数	材積	価額
銘木市	第1グループ	8	18.6	31.0	53.4	45.0	31.5
	第2グループ	6	14.0	47.4	36.0	38.7	53.3
	第3グループ	29	67.4	21.6	10.6	16.3	15.2
	合計	43	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一般市	第1グループ	8	24.2	43.1	62.7	61.9	63.1
	第2グループ	6	18.2	36.7	29.7	28.1	28.6
	第3グループ	19	57.6	20.2	7.6	10.0	8.3
	合計	33	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ープの比重が高まる。なお，単一樹種で見た場合，一般市のコジイに対し，銘木市ではイチイガシが最多樹種となり，また両樹種の比重も銘木市ではかなり低い。

②取扱価額について見ると，銘木市では第2グループが第1グループを大幅に上回り，価額面では第2グループが銘木市の目玉となっている。特に，この銘木市ではケヤキの比重の高さが目立ち，材積で10.4％，価額では31.7％をも占める。

4. 小量取引の実態

1件，いわゆる，1はえ当たりの材積，価額等の取引規模は，多樹種，多規格を反映して非常に小さい。表－3はいくつかの指標によってこの点を確認したものであるが，小量取引の傾向は，一般市より銘木市，第1樹種グループより第2・第3樹種グループにおいて著しい。ただし1件当たり価額については，一般市より銘木市の方がかなり高くなっている。これは銘木市の平均価格が高いためである。しかし，銘木市においても1件当たり平均価額は62千円程度にすぎない。

5. 規格別取引状況

はえごとの規格は，前回同様，長級17種，径級11種に分類して樹種ごとに集計したが，ここでは表－4として広葉樹の総平均の結果のみを示した。なお，整理方法を若干変更したので，前回の一般市の数字と連続していない部分がある。

まず長級構成についてみると，一般市の針・広比較

表－3 市別・樹種グループ別，取扱規模

区分	銘木市 1件当り取扱量 材積	価額	1～2本はえの件数割合	一般市 1件当り取扱量 材積	価額	1～2本はえの件数割合
	m³	円	%	m³	円	%
第1樹種グループ	1.74	62,813	47.2	1.87	56,952	43.8
第2樹種グループ	0.98	69,627	74.9	1.00	30,301	57.8
第3樹種グループ	0.90	43,663	85.4	0.65	16,047	71.6
合計	1.20	61,915	68.5	1.30	38,912	54.6

表－4 市別・長径級別，件数，材積構成比

長級・径級区分		銘木市 件数割合	材積割合	一般市 件数割合	材積割合
		%	%	%	%
長級	2m未満	1.5	2.0	1.9	0.8
	2mもの	12.1	12.4	12.8	13.7
	3mもの	28.8	32.2	33.9	29.9
	4mもの	40.5	31.1	35.3	25.4
	5mもの	5.7	3.8	6.3	5.4
	6m以上	7.7	7.6	3.4	2.5
	込み	3.8	10.9	6.4	22.3
径級	12cm以下	—	—	—	—
	13～30cm	34.5	29.5	45.8	38.0
	31～40cm	39.1	39.4	37.4	40.9
	41cm以上	23.3	23.2	13.8	12.0
	込み	3.1	7.9	3.0	9.1

では，針葉樹では4mものが主流であったのに対し，広葉樹では3mものと4mものとが相半ばし，やや短尺ものが多いという傾向が見られたが，銘木市においても基本的には同様である。ただし，銘木市の広葉樹では，一般市にくらべ全体として長尺もの，なかんずく6m以上が相対的に多く，逆に「込みはえ」が少ないことが特徴である。径級においても同様であって，銘木市は全体として41cm以上の大径材が多い。

6. 樹種別価格

前回同様，イチイガシの平均価格を基準にして，A（イチイガシの1.5倍以上の高価格群），B（同じく0.5～1.5倍の基準価格群），C（同じく0.5倍未満の低価格群）の3区分を行い，一般市と銘木市の組み合わせで示す。たとえばA－Bは一般市でA，銘木市でBに区分された樹種，X－A，C－XのXは両市のいずれかで取引の実績がなかったことを示す。ただし，前第1報の樹種別価格区分は，整理の手違いにより誤って記載したので，関連部分（表－1の価額及び平均単価，樹種別価格区分）を削除するとともに以下のように訂正する。

B－A：ケヤキ。X－A：クワ，シオジ。A－B：ハゼノキ。B－B：シラカシ，アカガシ，カシ類込み，ミズメ，サクラ，タブノキ，カエデ，ハリギリ，イスノキ，センダン，カツラ。C－B：クスノキ。X－B：コナラ，クリ，チャンチン，エンジュ，ナラガシワ。B－C：ブナ，コジイ，ネムノキ，ニレ，キハダ，ツバキ，ニガキ。C－C：イタジイ，クルミ，シデ，ホオノキ，クロモジ，エノキ，モッコク，シイ類込み，広葉樹込み。C－X：クロガキ，ヘラノキ。X－C：チシャノキ，トネリコ，チャンチンモドキ，カキ，イイギリ。